

# 薬剤師・看護師で取り組む リスクマネジメント



薬剤部 医薬品情報課 課長補佐 小田 真司

病院内では日々多くの薬剤が使用されています。その一方で、薬剤を使用する限りは常にインシデント発生リスクを伴います。当院においても薬剤関連インシデントへの対策は最優先課題とされています。私は医療安全セーフティマネージャーとして、薬剤関連インシデントを減少すべく、薬剤師の立場で業務を行っています。



これまでに薬剤関連インシデント減少のために進めてきた主な取り組みを右の表に示しています。当院では2014年より電子カルテを稼働させており、その特性を

生かして、各職種が効率良くかつ安全に実施できる取り組みを進めています。

また、病院内の医療安全を担保する上で、各職種間の信頼関係を構築することは非常に重要です。薬剤を使用する際には必ず看護師が関与しているため、看護師との連携を常に心がけています。運用上の問題点があれば現場へ赴き、医薬品安全管理責任者、医療安全管理者、看護部長とディスカッションを行った上で、問題点を早急に修正するよう努めています。

当院では2012年より薬剤師の病棟配置を開始しており、薬剤師・看護師間の距離が近く、何事も相談しやすい雰囲気醸成されています。全国的にも「薬剤師の病棟配置により薬剤関連インシデントが減少する」といった報告があり、病棟薬剤師への期待が年々高まってきています。

今後は、これまでの取り組みに対する

アウトカムを明確に評価した上での業務展開や、プロトコールに基づく薬物治療管理 (Protocol Based Pharmacotherapy Management=PBPM) の導入による安全管理に貢献していきたいと考えています。

薬剤師は自分達が調剤した薬剤が安全に患者さんへ投与されることを願いながら日々の業務を行っています。その願いを確実に届けられるように、看護師と連携しながらリスクマネジメントに取り組んでまいります。

## ～薬剤関連インシデント減少のために 進めてきた主な取り組み～

- ① 薬剤師・看護師共同による定期処方確認
- ② 全入院患者の持参薬鑑別
- ③ 中止指示・休薬指示の院内標準化
- ④ 退院時処方の院内標準化
- ⑤ 医薬品マニュアルの大幅な見直し

# 当院における言語聴覚療法

リハビリテーション室 主任 兵頭 初恵



言語聴覚士 (ST) とは、1997年に制定された言語聴覚士法において、「音声機能・言語機能または聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うことを業とする者」と定義されています。コミュニケーション障害を扱う職業として、医療・福祉・教育の分野で広く活躍することができ、コ・メディカル部門では比較的新しい職種と言えます。また、近年著しく増加している摂食嚥下障害に対



当院のST：左より、宮崎、北村、兵頭、武藤

しても、評価・リハビリテーションを行うことができます。

当院では、2004年4月にST1名より言語聴覚療法を開始し、現在は4名のSTが業務に携わっています。主に、成人の入院症例を担当しており、大脳の病変・損傷、神経・筋疾患による失語症・構音発声障害や、脳血管疾患に限らず広く内科系・外科系その他の疾患で、摂食嚥下障害のある方々に関わっています。

具体的には、担当医師の指示のもと、まず症例ごとの担当STを割り振り、会議場面等で日常的なコミュニケーション能力の評価を行います。その後、可能であれば、課題・検査バッテリーを用いた評価を実施します。状態に応じて、実用会話練習、文字・絵カードを用いた言語理解・表出練習や、頸部・舌・顔面の刺激入力・リラクゼーション・運動等による構音・発声練習を行います。

摂食嚥下機能は、食事場面や改訂水飲みテスト・フードテスト等で評価し、経口

摂取や服薬の可否、食形態の変更や摂取方法について助言します。ここでも頸部・舌・顔面等の練習 (間接法) のほか、実際に食物を用いて咀嚼・食塊形成・飲み込み等の練習 (直接法) を行います。また、地域医療連携室や歯科・耳鼻咽喉科・NST (栄養サポートチーム) との連携を図ったり、IC (インフォームド・コンセント) やカンファレンスに参加し、チームの一員として多職種の橋渡しの役割も担っています。

急性期で発症間もない症例がほとんどであり、ご本人・ご家族のストレスやメンタルケアも大事な仕事です。尚且つ、急性期ならではの迅速な対応も求められています。

これからも、地域に貢献する思いやりの医療を提供し、スムーズに回復期・維持期につなげられるよう、そして、言語・コミュニケーションの専門職として良質な関わりができるよう、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。